

次世代に何を伝えたらよいのか？

(1月号からのつづき) 防災・震災・教訓・・・

さて、次の世代に我々は三つのことを伝えなければなりません。

一つ目は、自然は恐ろしいということです。

地震や大雨という自然災害は、山を削ったり自然を破壊したり、自然との関係をズタズタにしてしまう人間の愚かさに対して、ある種の警告を発しているのではないのでしょうか？

我々は自然災害の恐ろしさを伝えると共に、自然の大切さ、自然と共生することの大切さも伝えていかなければなりません。

二つ目は、震災後14年が経ち色々な形で検証されていますが「みんなで助け合って良かった」ということです。

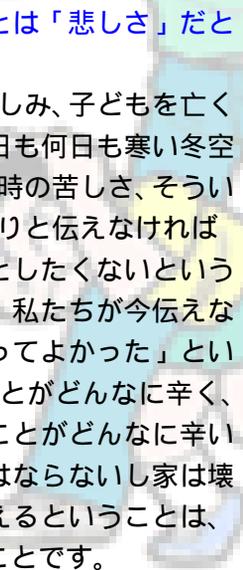
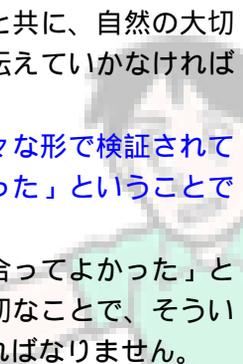
被災者の人たちも「地震の直後助け合ってよかった」と思っているでしょう。これが一番大切なことで、そういう人間の素晴らしさも語り継がなければなりません。

三つ目に伝えなければならないことは「悲しさ」だと思えます。

親を亡くした悲しみ、子どもを亡くした悲しみ、何日も何日も寒い冬空に放り出された時の苦しさ、そういうものをしっかりと伝えなければ

なりません。そんな辛い思いは二度としたくないというふうに思わないと防災は進みません。私たちが今伝えなければならないのは、人間の「助かってよかった」ということよりも、人が亡くなるということがどんなに辛く、悲しいことか、家が無くなるということがどんなに辛いことかです。だから命は亡くってはならないし家は壊れてはいけないのです。悲しさを伝えるということは、何よりも私達がしなければならぬことです。

自分の親が亡くなったことはどんなに悲しいことだったが、話すことはとても辛いです。14年前のことを思い出したくないかもしれません。しかし、被災者がそのことを話さないと、世界中の人に伝わりません。いかに辛かったかということをもっと私たちの感覚と感性を通じて、次の世代の人々に伝えていってほしいと思います。それと同時に、人間の愚かさも伝えなければなりません。自然を壊してきた愚かさ、地震など来るはずがないと備えを怠った愚かさもあります。つきつめていくと自然というものをしっかり学んできたのかということです。学校で理科や社会などの授業がありますが、一体何のために勉強してきたのかということです。それは、高校や大学に入るためではありません。人々の命を守るた



め、あるいは私たちの社会を豊かにするために、学んでいるのです。私たちは理科で習った地球をどのように理解してきたのでしょうか。その中で地震というものをどういうふうに学んでいたのでしょうか。その学んだことは、防災に役立ったのでしょうか。人間は完璧ではなく必ずどこかに弱さやいたらなさをもっています。しかしだから許されるわけではなく、その人間の弱さを知った上で少しずつその弱さを無くしていく取り組みをするということ、地震が私たちに教えてくれたことだろうと思います。特に、何よりも悲しさを忘れずに伝えていかなければならないと思っています。

(1月号に続き、関西学院大学教授・神戸大学名誉教授・室崎益輝先生の講演の言葉を一部使用させていただきました)



全国各地からお問い合わせや質問の便利が防災会宛に送られてきます。そのひとつに「防災訓練とは何をすれば良いのでしょうか？」という質問があります。

私たちは「防災訓練は全国一律ではない」と考えています。さらにいえば「各人各家庭ごとに違う！」ということです。もしあなたが災害とその後の被害に遭遇した場合、あなたとあなたの家族がどんな危険にさらされ、日常生活がどうなってしまうのかを想像してほしいのです。これは「災害イマジネーション能力」といいます。災害をイメージする力があれば、災害が起きた後、あなたがどういう状況に置かれるか、そのためにいま何をしておくべきなのかが具体的にわかります。

災害が起きる前にできることの多さ、使える時間の長さは、災害が起きてからとは比較になりません。「イマジネーション能力」を働かせることができれば、先取り、先回り、あなたの受けるであろう被害をあらかじめ軽くすることができるのです。逆にいえば、いくら防災の知識を蓄え、どんなに備えを充実したつもりでも、自分が受けるであろう被害を想像した上でなければ、実はあまり意味がありません。人間は自分が認識したり想像したりできない状況に対して、有効な対策や準備をすることができません！(東京大学教授・都市基盤安全工学国際研究センター長・目黒公郎先生「大地震死んではいけない！」より)

さて、上記の「防災訓練は何をすれば良いのでしょうか？」ということですが、まず「災害イマジネーション能力」を使い、自分が受けるであろう「災害・被害」をイメージすることから始め、それらに「有効な防災訓練」をしてください。バケツリレーや避難訓練も大切な訓練のひとつですが「まずは自分が死なないための対策」を第一に行ってください。

さあ、あなたならどのような防災訓練をすればよいと思われるか？グリーンシティ防災会は、「今！必要だと思われる防災訓練」を適時行い啓発しています。ぜひともご参加ください！あなたの大切な人を守るのは「防災会」ではありません。「あなた自身なのです！」